

# 「公益財団法人 日本城郭協会 平成28年度事業計画」

平成28年5月

## 1、「続日本100名城（仮）」の選定

公益財団法人 日本城郭協会は平成29年度に創立50周年を迎えるが、その記念事業として現行の「日本100名城」に続く100名城を新たに選定する。「続100名城又は新100名城（仮）」は文科省の後援を得て行い、発表は平成29年4月6日（城の日）を予定する。

日本100名城選定は創立40周年記念事業として行われ、その後のスタンプラリー事業と共に、国民の城郭に対する関心を飛躍的にたかめ、城郭文化の発展に大きく貢献をしたことは、城郭関係者のみならず社会的にも高く評価されている。

第2次城ブームとされる今日、新たな100名城選定を求める声は城郭ファンはもちろん各界から協会に多数寄せられている。

選定の方法としては協会会員、1000人近い100名城登城者にアンケートを出して、そのデータをもとに選定委員会で最終選定する。選定委員は理事、顧問の中から選び委嘱する。基本的には前回の選定のやり方を踏襲するが、社会的関心を広げるためマスコミとの連動も模索する。

## 2、「日本100名城スタンプラリー強化及び「城カード発行」

当協会選定の日本100名城を探訪する「100名城スタンプラリー」はますます評価が高く、100名城登城達成者は970人を超えた。テレビや新聞などで100名城及びスタンプラリーが頻繁に紹介されることで、人々の城郭への関心が一層高まっている。

こうした状況をさらに発展させ、城郭文化の振興に寄与する事業として「日本100名城城カード」を27年度に発行することで計画したが、諸般の事情から発行できなかった。28年度は有料発行を実現したい。具体的には各城毎にカードを作成、登城記念として有料頒布する。

1枚200円を予定している。この収入の40%－45%を各城の販売手数料に充てる。残りはカード製作費および協会の「親子名城見学会」「城の自由研究コンテスト」の運営費に充てる。

## 3、「親子名城見学会・城の自由研究コンテストの継続・強化」

第14回の「親子名城見学会」と「城の自由研究コンテスト」は児童・保護者さらに教育関係者からの評価も高く、大きな教育的成果を

上げたが、28年度も一層の充実を図る。

具体的には「名城見学会」では話題性の高い城で開催するほか、開催地域のバランスを考えるなど運営方法を改善する。また「城の自由研究コンテスト」は応募者のためのPRをさらに強化する。年度末には報告書を刊行する。

#### 4、「日本城郭検定の強化・充実」

日本城郭検定は本年も2回開催する。6月に予定している第8回検定では昨年に引き続き最上級の1級クラスを実施する。また「日本城郭検定」の受験者から要望の多い「城郭検定公式参考書」を秋に発行する。

#### 5、「国内初の総合城郭イベントの開催」

各大学の社会連携部門と提携して城郭講座や城郭セミナーの開催を検討、実施する。

また各都道府県や各市の生涯学習部門から「城講座」の依頼が最近多くなっているが、これらの要望には積極的に対応して、人々の城への関心の高まりに応える。

城ブームの高まりに応じて、多くの城郭ファンが望む「総合城郭イベント」開催を開催する。

#### 6、「学術委員会の活動強化及び学術委員の拡充」

学術委員会の活動を強化する。具体的には「日本城郭検定」の問題作成を主導するとともに、「城郭講座・城郭セミナー」開催など積極的に対応する。学術委員に城郭研究者や各城の学芸員を新たに委嘱する

#### 7、「ヨーロッパ100名城の調査・研究会」

「ヨーロッパ100名城」の社会的認知度を高めるための調査研究の旅行企画などを旅行会社と提携して実施を検討。

#### 8、「テレビ・新聞・出版物への監修・助言の体制強化」

テレビ・新聞などマスコミの城郭に関する問い合わせには、学術委員と協力して事務局全体で対応する。また一般の人々からの質問にもきめ細かく回答して感謝されているが、データの整備など体制をさらに充実させる

#### 9、「会報・ホームページの一層の充実および会員へのサービス強化」

会報の増ページは会員からの評価を得たが、会員の寄稿欄の一層の充実を図る。また多くの会員からの寄付に応える意味でも会員が参加できる事業への特別優待制度や会員相互の懇親と情報交換など会員サービス強化に努めると共に会員増強をはかる。

ホームページは28年4月から内容、運営方法共に一新し、魅力的な

ホームページを提供する。

具体的にはきめ細かい情報、多彩な城郭情報を提供するだけでなく、最新の情報をアップする。このため運営を内製化し、事務局の広報体制を強化すると共に、情報収集の仕組みとして各地に広報協力員配置を検討。